

安曇野市 農業再生協議会だより

第4号

平成 25 年
3 月 31 日発行

発行元
安曇野市農業再生協議会

**平成二十五年度から安曇野市農業技術
アドバイザー制度が始まります**

安曇野市が策定した「安曇野市農業・農村基本計画」では、

◆農業で「稼ぐ」→経営する→

◆田園を「守る」→維持する→

◆安曇野に「生きる」→暮らす→

を三つの柱と定め、農業・農村振興の方向性を示しておりますが、今年度から具体的な取組の一つとして、農業技術アドバイザー制度をスタートさせます。

この制度は、市内に暮らす農家さん等からの栽培に関するお問い合わせに対し、農業技術アドバイザー（JAや農業改良普及センターのOB職員）が、お答えする制度です。

平成二十五年度は、市農業再生協議会が委嘱した下記の四名のアドバイザーでスタートします。

【お問い合わせには】

- ・お問い合わせは、電話にてお願いいたします。
- ・下記記載のアドバイザーならだれでもお問い合わせ頂けます。
- ・アドバイザー料金は掛かりません。
- ・電話対応が難しい場合は、アドバイザーの判断により、現地アドバイザーもありえます。

【事務局からのお願い】

・アドバイザーは、それぞれご自宅に在住されております。特に休日等定めており

ませんが、早朝や夜間等以外でのお問い合わせにご協力ください。



平林 隆之さん
穂高地域在住
080-8810-0037
携帯



山田 清二さん
堀金地域在住
080-8810-0038
携帯



山本 幹雄さん
豊科地域在住
080-8810-0039
携帯



増澤 道弘さん
豊科地域在住
080-8810-0040
携帯

私たちが農業技術のお手伝いをいたします。お気軽にお問い合わせください。

花の仲卸スペースで安曇野を紹介

東京都八王子市の花の仲卸市場「ヴェルデユール」内において、安曇野の農産物を販売しています。

ヴェルデユールの代表者は、以前安曇野を訪れたことがあり、その農産物の美味しさ、特にお米と水のおいしさに感動し

たそうです。そこで、以前から親交のあった花き生産者に「一緒に、安曇野の農産物を紹介してみないか」と提案したことがきっかけとなり、米、野菜を中心に六月から毎月一回のペースで八王子を訪れ、「旬のもの」をテーマに販売しました。

米は重いため初回に十袋を準備し、その後は注文販売にする予定でしたが、予想以上に好評であつたため、毎回数を増やしながらか持参することになりました。

料理の方法や次回販売してもらいたいもの等、消費者と生産者が直接話し、安曇野の紹介をすることによって、安曇野という地に興味を持ってもらうことができたのではないかと感じます。

現在は五名の生産者がそれぞれの得意分野を生かし、農産物を持参しています。女性農業者や新規就農者を対象に仲間を増やしていきたいと考えています。これからも、生産者が直接販売し、消費者と会話することで安曇野のファンを増やしたいと思えます。

（安曇野アグリチャレンジ支援事業）



▲安曇野ファン獲得を目指して

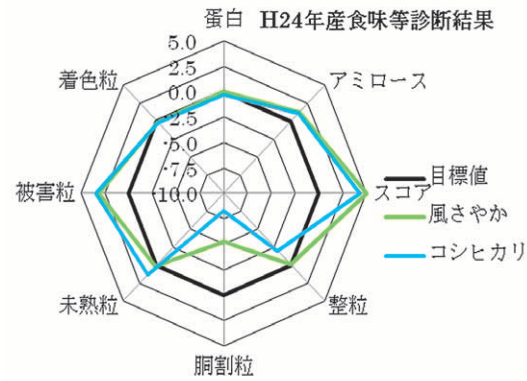
生産振興事業

〇「風さやか」栽培および食味評価検証

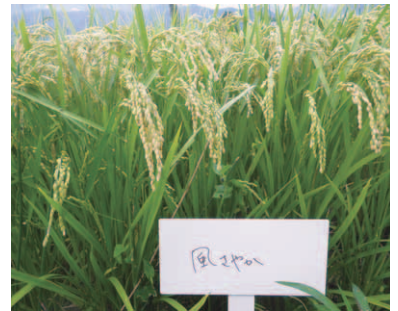
安曇野市農業再生協議会の米穀類生産振興協議会では、安曇野産米にブランド力などの付加価値をつけ販売力を向上するため、昨年度に長野県が開発した新品種「風さやか」について栽培・検証を行っています。現在は、市内に普及しているコシヒカリと同等、もしくはそれ以上の食味・収益性があるかという点について、市内に設けた約八千六百㎡の圃場で生産された風さやかで検討しています。

今年度はコシヒカリの特別栽培米と同等の施肥設計で生産し、平均反収は約六百kgとなりました。食味についてもJ Aあづみのコシヒカリの平均スコアをやや上回る結果となりました。

市内の宿泊施設に宿泊されたお客様とした、食味アンケート結果でも



ケート結果でも八十%以上の方から「美味しい」と評価して頂き、さらに約七十%の方は普段食べている米より風さやかが高評価を頂いています。来年度もひき



▲収穫前の「風さやか」

つづき、風さやかを栽培し、収量と食味への影響のデータを取り、今後どのような方法で「安曇野風さやか」としてアピールすることができののか、検討していく予定です。

〇花き周辺のスリップス(体長1.0mm以下・ハム)の微小害虫リアザミウム類)生息調査結果から

スリップスによる被害は、多くの花き農家が共通した課題として抱えており、少しでも解消することが求められております。そこで、花き生産ハウス内と周辺の麦畑、および畦畔に生息するスリップスの種類・捕獲数調査を平成二十四年五月〜七月に実施しました。

▼調査目的

花き生産ハウス内と麦畑、そしてその間の畦畔に生息するスリップスの種類・捕獲数調査を行い、発生動向を探る。

▼調査方法

麦畑・花ハウスのほ場において、主な優占雑草の摘み取り、捕虫網・粘着トラップ、による虫の捕獲を行い、プレパラート標本、青色粘着



▲スリップス捕虫網による20回振り

紙により種類別捕獲数を確認した。

▼結果

麦畑において発生していたアザミウム類は、主に麦に寄生する種類と、雑草や花に寄生する種類に分けられる。麦にはイネクダアザミウムとクサキイロアザミウムの二種類が寄生し、雑草や花に寄生する種類は、ネギアザミウム、ヒラズハナアザミウム、ミカンキイロアザミウムの三種類が確認された。

▼考察

花ハウス内で捕獲されたアザミウム類は、ほとんどがネギアザミウム、ヒラズハナアザミウム、ミカンキイロアザミウムであったことから、麦に寄生するスリップスではなく、麦の畦畔内の雑草に生息するアザミウムが花を直接加害する可能性が高いこと。



▲麦ほ場と畦畔雑草

また、麦刈時期との関連性については、特にストックのハウスでは、麦刈直後からネギアザミウムを主としたスリップスが麦側のトラップで急増したことから、畦畔雑草や麦畑内のヤグルマギクで発生していた種が飛来した可能性が高いこと。これらのことから、特に花のハウス周辺での畦畔管理とヤグルマギクの防除が有効であると推測する。

※調査試験検証機関 松本農業改良普及センター

野菜花き試験場

集落支援事業

○美しい農村環境の保全は集落ぐるみで

◆農地・水保全管理支払交付金

地域の手で農地や農道・農業用水などの農村環境を守る取り組みを支援する「農地・水保全管理支払交付金」制度は、平成二十四年度から第二期対策の五年間の新たなスタートを切りました。

この制度は、集落などの単位で非農家も構成員とした組織による、水路の泥上げ、沿道の草刈りなど農村環境の保全活動への従来からの支援（共同活動支援）に、老朽化が進む農地周りの農道・水路などの補修や更新等の活動に対する支援（向上活動支援）が加わったものです。

◆共同活動支援

| | H 24 年度 | (参 考) | |
|-----------|---------|---------|----------|
| | | H 23 年度 | 比 較 |
| 活動組織数 | 31 | 14 | 17 増 |
| 取組面積 (ha) | 1,207 | 481 | 726 増 |
| 交付金額 (千円) | 40,079 | 21,149 | 18,930 増 |

◆向上活動支援

| | H 24 年度 | (参 考) | |
|-----------|---------|---------|----------|
| | | H 23 年度 | 比 較 |
| 活動組織数 | 28 | 5 | 23 増 |
| 取組面積 (ha) | 1,076 | 196 | 880 増 |
| 交付金額 (千円) | 46,636 | 8,092 | 38,544 増 |



▲遊休農地の一斉草刈り

活動に関わる農地の面積に応じ、国・県・市からの交付金を活用していただくもので、地元の負担を抑えた支援です。

農地・農村は、産業として農作物の生産を支える基盤であるとともに、田園風景の保全や地下水の涵養などに寄与しながら、地域コミュニティを育む重要な役割を担っています。

田園産業都市を目指す安曇野市では、取り組み集落が前対策に比べ大幅に増加し、広範な農地を対象として初年度、活発な活動が行われました。

◆主な取り組み

まずは、どの組織も農地・水路などの農業施設の点検を行い、遊休農地の発生状況や、水路・農道の傷んだ箇所を調べた後、今後五年間の具体的な活動内容を計画しました。

そして、共同活動では、耕作されず草が繁茂している遊休農地や水路・農道沿いの草刈り、未舗装の農道普請、水路の泥上げ作業など、農家・非農家の連携のもと行われました。

また、向上活動では、施設点検で確認された水路の漏水箇所の補修をはじめ、素掘り水路からコンクリート水路への更

新、老朽化が激しいU字溝の付け替え、農道のパネル・法面の補修、未舗装道路のアスファルト舗装などが行われました。住民の自力では難しい工事は、地元業者の請負施工で実施されました。

◆再生協も活動支援

市再生協では、この農地・水保全管理支払交付金制度を補完する「田園環境保全管理活動推進事業」を実施しました。

農地・水制度の取り組みに至らなかった集落においても、定期的な農道や水路などの一斉作業によつて、地域の農村環境が長年守られています。

そこで、このような集落へも支援を拡大し、市内七十二集落に対して、活動費や組織運営費として使っていただくための補助金を交付いたしました。(総額百八十二万円)



▲水路の漏水箇所の目地補修



再生協掲示板

○果樹共済加入促進について

果樹共済は、昭和三十四年の伊勢湾台風が契機となり、果樹農業振興政策の災害対策の柱として農業災害補償法の中に制度化されました。

この制度は農家の相互扶助を基本とし、加入にあたっては、掛金の半分を国が負担しています。

また、県内の多くの市町村が災害対策の一環として掛金の一部を加入者に助成しており、安曇野市においても、農家負担掛金等の二十%補助を行っております。

制度が導入され四十年目を迎え、国では全樹種の平均加入率五十%を目標として取り組んでいます。当組合では「損害防止事業」や「大規模農家支援事業」の実施及び農家ニーズに合わせた加入方式の「提案型推進」により、平均加入率四十%、主品目のりんごにおいては四十七%と県平均を上回る実績となっております。

さて、近年、日本各地では「猛暑による干ばつ」



▲ひよりの被害りんご

「集中豪雨」「爆弾低気圧」「台風の大形化」などにより果樹にも大きな被害をもたらしております。このような異常気象が続く中、果樹共済は果樹農家の経営安定のため「セーフティネット」として位置付けられています。

万が一に備えて「果樹共済」へのご加入をおすすめ致します。

問合せ先
のうさい中信安曇野支所 TEL七二一五一九二

○フラワーバレンタイン安曇野2013

日頃の感謝を込めて、男性から女性にバレンタインにはお花を贈って欲しい。という思いから、昨年に続き二回目となるフラワーバレンタインを二月十二日開催しました。

市内で生産された花を用意し、男性もしくは男性の同伴があれば参加できるという回も設けたため、参加者が少なくなるのでは、と心配しましたが、全体で約五十名の参加がありました



▲相手を想って、真剣に作成

参加した方の中には「昨年も参加して、妻に花を贈ったところ、予想以上に喜んでもらえて、嬉しかった」とか「毎月、妻に花を贈っている」という人もいました。男性が女性に花を贈るといふことには抵抗があったり、恥ずかしさがあったり、という人も多いと感じます。この企画が花と親しむきっかけとなり、安曇野の花について興味を持ってもらえるよう取組んでいきたいと思えます。

視察報告

大阪食肉市場における安曇野産牛枝肉共励会報告

安曇野市畜産振興協議会は、市内の肥育牛生産者の技術研鑽と、共販・流通体系の強化を図ることを目的に、十一月二十一日、大阪食肉市場にて「共励会」を開催しました。

出品牛二十六頭（八農家）は、解体後、枝肉取引規格審査基準に基づいて審査され、セリに掛けられました。審査結果は次のとおりです。

- ▽最優秀賞等 (旬高原牧場)
- ▽優秀賞等 (株降簗物産)
- ▽優良賞等 (伊藤雅敏氏)

市場での、他産地との比較では、信州牛が良質なため「信州プレミアム牛安曇野産」として安定した出荷をしてほしいとの評価でした。市畜産振興協議会では、今後も定期的な共励会開催で、市場での認知度を高めて行きたいと考えています。



問合せ先

安曇野市農業再生協議会

(安曇野市農林部農政課)

TEL 〇二六三ー七七ー三一一
FAX 〇二六三ー七七ー六〇六〇